

富原道晴氏所蔵品展示

真田家の遺したもの

真田家の 城郭とその戦歴

今年の真田氏歴史館の企画展は、城郭研究家のしろはく古地図と城の博物館富原文庫代表の富原道晴氏にご協力をいただき、真田三代と関わりのある城郭とその合戦に焦点をあてて開催することになりました。

特に地元住民の馴染みの深い戸石城・松尾古城等の城郭資料や、長篠合戦図や大坂冬の陣（真田丸）布陣図等による真田家の戦歴を紹介しております。

また真田幸村公十四代目当主である真田徹氏のご協力のもと、真田幸村公の戦歴に関する史料を展示し、真田家の心を引き付けてやまない秘密に迫りたいと思います。

松尾古城



松尾古城之図

松尾古城は上田市真田町長字日向に築かれた山城です。横沢の集落を抜けて、角間溪谷へ向かう途中、角間川を渡りますと、「日向畑遺跡」という真田家の墓と推定される遺跡があります。このあたり一帯は、日向畑の館跡ともいわれていて、真田幸隆以前の真田氏の祖先が住んでいたところでした。戦国時代前期の土豪たちは、館の背後の山に難を逃れるための山城を築くのが通例でした。その良い例が甲府の武田家館の背後に造られた要害ようがい（山さん）城です。真田家の場合は、日向畑の館の背後にある角間山の尾根に、山城を築き、緊急避難に備えたのです。それが松尾古城だといわれています。この尾根の見晴らしの良い場所に「遠見番所」という地名が残っているところを見ると、交通の見張りの上でも、絶好のポイントだったのでしょう。

長篠の戦

長篠の戦は前半の武田軍による長篠城の攻撃戦と、後半の織田・徳川連合軍との設楽が原での野戦とに分けて考えられます。ここでは、後半の「設楽」したらが（が）原（はら）の野戦について解説します。

天正元年（二五七五）に武田信玄が死去すると、武田勝頼が家督を継ぎます。勝頼は父信玄の意思を継いで、遠江（静岡県）や奥三河（愛知県）の支配権奪取のための戦いに臨みました。対する織田・徳川連合軍側も頑強に抵抗します。

こうして、両軍は天正三年（二五七七）七月奥三河の設楽（したらが）原（はら）の連吾川の馬防柵を挟んで熾烈な戦いを展開しました。結果は、鉄砲によつて武田二十四将の多くが討死し、武田軍は惨敗しました。この大敗が後に武田氏が滅亡するという要因となったのです。

従軍した真田家でも、真田信綱や昌輝も戦死するという悲劇に見舞われました。

戸石城

「戸石城」は地元では、「砥石城」という漢字で表記していますので、ここでは地元の表記に従つて「砥石城」として話を進めます。

この城は、坂城の葛尾城主村上氏が東信濃への前進基地として、上田市伊勢山の東太郎山の尾根に、配下の衆（がく）巖寺（がんじ）雅方（まさかた）と布下ぬのした（に）兵衛へえに命じて築いた山城です。伊勢山・金剛寺・畑山にまたがるスケールの大きな山城です。城は本城を中心に枳形と砥石の二つの砦とこれに米山城を加えて、砥石米山城と総称しています。

尾根突端の砥石の砦は南方の眺望に優れていて、富士山が見え、佐久地方が一望できます。戦略的にも重要な城でしたから、村上氏がここに城を築いた理由も頷けます。

さて、武田氏は天文十九年（西暦二五五〇）城を攻めますが攻略することができず、かえって大敗してしまいました。この戦いを甲斐の国では「砥石崩れ」と呼んでいます。



戸石城（城郭図）



信州戸石合戦之図



信州戸石城（戸石合戦図）



真田家御居城 小県郡戸石米山古城



信濃戸石大合戦之図（錦絵）



長篠合戦図



長篠合戦図屏風（複製）



長篠大戦之図（錦絵）